

Reports

アメリカ ウィスコンシン大学学生によるホームステイ

2015年7月22日～24日の期間で、筑波大学へ短期研修で来日したウィスコンシン大学の学生さんたちをゲストとしたホームステイプログラムを実施しました。各家庭でのもてなしや、全体での研究所めぐりとおしてゲスト・ホストともにいい思い出ができたようです。



つくばワールドフットサル2015

サッカーをととした日本人と外国人の交流の場として2015年11月29日に実施しました。当日は、400名を超えるプレーヤーがあつまり会場は盛り上がりしました。今後、より多くの外国人の参加を目指して、企画をブラッシュアップしていきます。



JAつくば市、JAつくば市谷田部様からの野菜の協賛品が喜ばれました。

宝篋山(ほうきょうさん)ハイキング

2015年11月28日に宝篋山ハイキングを行いました。当協会の日本語講座受講生を中心として2歳～70歳代まで26名が参加しました。当日は快晴に恵まれ、山頂からの絶景を眺めながらランチを食べました。「登山は初めだったけど楽しかった、また来たい。」と話す人が多かったのが印象的でした。



常総市水害支援活動

2015年9月の関東・東北豪雨による水害について、常総市で活躍する「たすけあいセンター JUNTOS (ジュントス)」さんが、ボランティア情報や支援の情報などを生活者目線で発信するかわら版「JUNTOS通信」を発行しています。当協会では、翻訳ボランティアの方に協力頂き、英語・中国語・ポルトガル語の翻訳支援を継続しておこなっています。

G7茨城・つくば科学技術大臣会合開催記念事業 つくば市国際交流協会交流会

国際交流協会での活動について、共通理解を深めながら交流しましょう。サポーター(ボランティア)になりたい方、興味がある方も大歓迎です。サポーター登録もできます。

- ◆日時：2016年3月6日(日)
- ◆場所：つくばサイエンス・インフォメーションセンター
- ◆参加費：無料
- ◆対象者：サポーター(ボランティア)活動に興味のある方
- ◆入退場自由

プログラム

- 13:00 基調講演『十人十色のボランティア・ボランティアの向こうにあるもの』
一般社団法人コモン・ニージュール 代表理事 福田英子氏
- 14:40 ボランティア活動紹介
通訳・翻訳、医療通訳、日本語講師などボランティアの各カテゴリーの経験者が集まります。
- 15:45 交流会

Notice Board

つくば市国際交流協会 賛助会募集!

賛助会では、協会の活動の趣旨にご賛同いただけるみなさまからの資金面でのご支援を募っております。

賛助会費

個人:1口 2000円/年 団体:1口 10,000円/年
法人:1口 20,000円/年

平成27年度賛助団体及び法人(平成28年2月1日現在)(敬称略)
JCOS、有限会社光測量設計、ホテル松島、医療法人健佑会、浅野物産株式会社、関彰商事株式会社、有限会社丸市物産、朝日印刷株式会社、株式会社高田工務店、株式会社大和田建設、国分建設株式会社、株式会社相澤建築設計事務所

※その他運営面を支援いただく各種ボランティアがごいます。詳しくは当協会HPをご覧ください。



加入記念グッズがあります。(撮影協力:日本語教室生徒)

編集・発行



(一財)つくば市国際交流協会
〒305-0031 茨城県つくば市吾妻1-10-1 つくばサイエンス・インフォメーションセンター内
TEL:029-869-7675 FAX:029-852-5513
ホームページ: <http://www.inter.or.jp/index.htm> メールアドレス: info@inter.or.jp

(平成28年2月1日発行)

Hot Topic!

英語スピーチ・ プレゼンテーション大会



2015年11月22日、23日に筑波大学学生チューデント commons において、英語スピーチ・プレゼンテーション大会を開催しました。

この大会は、主に英語学習初心者を対象として、筑波大学の留学生とペアになり、2日間一緒に発表原稿を完成させ、2日目の最後に発表するというものです。ペアになった留学生とできるだけ英語を使ってコミュニケーションをとること、留学生の母国の文化を理解することなどを目的としています。

大会は、スピーチとプレゼンテーションの2つの部門に分かれて行いました。進め方は、①事前に学校の先生などに指導を受けながら可能な範囲で英語の原稿を作成する。②ペアになった留学生と原稿を完成させる。③プレゼンテーションの部は、発表用のスライドを作成する。④発表練習をする。⑤2日目午後に発表をする。という流れです。

大会初日は、初め緊張する様子も見られましたが、今回はグループでの発表もOKにしたことで、留学生ともすぐに打ち解けて、発表準備はもちろんですが、それ以外にもいろいろな話をしている様子が見られました。

2日目の発表では、保護者や学校の先生など多くの方々が見守るなか、それぞれが精一杯の素晴らしいパフォーマンスを発揮していたと思います。

今回は4名の病欠がありましたが、中高生42名、留学生26名が参加しました。大会結果や参加者の声は、当協会ホームページに公開しているのでぜひご覧ください。

Contents —もくじ—

- P1 **Hot Topic!**
英語スピーチ・プレゼンテーション大会
- P2 インタビュー企画「種まく人」
筑波学院大学 国際別科長 金久保 紀子氏
- P3 **ZoomUp!**
① 外国人のための日本家庭料理教室
② 高校進学なんでもガイド
- P4 Reports & Notice Board





種まく人 ~Seedfolks~

筑波学院大学 国際別科長 金久保 紀子 氏

筑波学院大学国際別科とは、中級レベルの日本語能力を持ち進学や就職を目指す外国人を対象とした、多くの方に開かれた日本語教育機関です。国際別科は、学校教育法に定められる留学生別科のひとつです。

国際別科とは？

筑波学院大学に国際別科ができたのは2010年で、今年で6年目になります。前身である東京家政学院筑波女子大学の頃から日本語教師養成や留学生の支援を行っています。

学生はアジア各国出身の方が多く、すでに国内にいた方もいれば、海外から直接入学してくる方もいます。

国内からは、日本語学校からの進学のほか、日本人と結婚してもう少し日本語を学びたい方や研究所での研究に切りがついた方など、つくばならではの多様な方を受け入れています。

海外から直接やってくるのは、つくば市に住んで、街が気に入って、自分の国から親戚や友人を呼び寄せるケースがほとんどです。つくば市は勉強しやすい、住みやすいというイメージもあるようです。

別科を修了してから、筑波大や茨城大の大学院に進学する人も毎年います。修了後、すぐに仕事を始めた人もいます。

これまではだいたい7、8人だったのが2015年度は30名ほどが在籍しています。今後も増えていく予想です。

授業には文型や作文、会話の授業があります。漢字の授業もあります。漢字の力の伸びは、漢字の大事さをどう認識するかによってずいぶん違いますね。

よく「あなたが生きているうちには（漢字は）無くないよ。」と学生に言っています。日本人にも言いますが、全てがひらがなにはならないし、敬語もなくなりません。日本での今後のキャリアのためである、と本人が意識することが大切だと感じています。

全部日本語での授業です。学生さんは宿題も多いし、大変だと思います。それでも、2回目、3度目の学生生活を楽んでいる方が多いようです。

私と外国人支援

日本語教師をはじめた当初は、頭も固く「外国人には優しくなくて、」「日本語をとにかく教えずには」と考えていました。しかし、さまざまな経験から少しずつ考え方が修正されてきています。

特に長期で日本にいて、日本に住み続ける、という方には、同じ日本に住む人として接する必要があると思います。

外国人支援の本質にたどりつくためには、外国人の生活の実態を丁寧に知ることがとても大事です。この点については、今後研究・調査をしたいと思っています。

留学生が、実態としてどういう生活をしているのか、パイ

トで日本語は使っているのか、日本人の友達は本当にいるのか、どういってお金のやりくりをしているのか、など気になることがいろいろあります。それをつかんで本当の意味での「理解」をして、それを「支援」につなげたいですね。

「つくばと外国人」のこれから

今、急いでアプローチをしていかなければならないもののひとつは「外国人の子どもたち」の問題です。

きちんと母語を持っている親は、帰国してもなんとかなりますが、日本で生まれ育った子ども達は親の国に戻っても何も出来ません。

この子達を日本で生活できるようにするための教育をきちんと向き合うことが大切です。現場の教育において、外国人の子どもは、「日本語ができない」と「勉強ができない」、が一緒にたにされたり、ちょっとお客さん扱いられているように感じられます。ただ日本語を教えればよいということではないと思います。

外国人の親に対する日本の教育システムに関する啓蒙も大事です。高校進学などがいい例です。子供が小さいうちは義務教育で進んでこられたけど、高校進学になると「試験とはなに？」というところからスタートするわけです。

私もこの問題にもっとコミットをしたいと思うし、ここで大学教員という立場からも情報を発信していきたいですね。

もう一つは、日本語が母語ではない方が話す日本語について、日本人がもっと慣れて、彼らが何を話したいと思っているのか、という内容重視の聞き方をするようになってほしいと考えています。

まずは、日本人も外国人もお互い理解者が増えることが必要です。今つくばではこんな問題が起きているという事を、日本人・外国人がシェアして解決方法をさぐる場、仕組みが求められていると思います。



事業報告① ZOOM UP! 外国人のための 日本家庭料理教室

毎年開催している料理教室ですが、今回は趣向を変え外国人の方を生徒として

募集し、日本家庭料理を作る講座を実施しました。

先生として、つくばで料理教室をひらいている桑原海鷹（くわはら かいよう）さんを迎えました。先生ご自身が中国語・韓国語で話すことができ、また当協会の英語通訳ボランティアにも協力をもらうことにより、多言語で教室がひらけました。

当日は、会場いっぱいの外国人の方にご参加いただき、にぎやかに実施することができました。参加者は、かつおぶしやゴマ、昆布など材料自体にも興味をもち、パッケージを携帯電話で写真にとっている姿も見られました。

少しでも日本料理に興味をもつきっかけになればうれしいです。また、外国人を対象にした料理教室を企画したいと考えています。



MENU

- ・鶏のからあげ
～3種類のソースで～
- 黒酢あん（中国）
- ヤンニョムソース（韓国）
- 野菜ドレッシング（日本）
- ・だしから作る おみそ汁
- ・わらび餅

事業報告② ZOOM UP! 高校進学 なんでもガイダンス

2015年7月11日につくば市役所で開催しました。このイベントは、外国人親子を対象に日本の高等学校について、システム・入試・高校生活・大学への進学など様々な側面からガイダンスをおこなうものです。

当日は、高校教諭や外国人教育支援をおこなうNPOの関係者、外国人の保護者・生徒をゲストとして招きました。ゲストそれぞれが発信してくれた情報を参加していた外国人がメモをとりながら一生懸命聞いている姿が印象的でした。

参加者からは、高校の先生から直接話を聞いたことや先輩の体験談を聞いたことがよかったという声が聞かれました。

外国人にとって、日本の高校への進学はひとつの壁になることが多い問題です。今後も「外国人が求めている情報とは何か？」ということを考えながら、教育支援の活動も継続して実施していきたいと考えています。



協力機関
古河中等教育学校・筑波高等学校
荏岐高等学校・つくば秀英高等学校
茨城NPOセンター・ commons

当日プログラム

- ① 講演
 - ・「キャリアづくりと高校進学」
 - ・「高校の種類（学科など）と入試について」
 - ・「高校生活に関するガイダンス（学校生活・学費など）」
- ② パネルディスカッション
「高校進学体験外国人保護者・生徒の体験談」
- ③ 市内高校紹介
- ④ 参加者全体での座談会

